学校だより
笑顔 本小っ子Ⅲ
9月号⑧
2025.9.24(水)
文責　本宮小校長　佐久間仁

防災教室（四年）

日赤の講師をお迎えして、防災教室を行いました。「風水害」をテーマに、情報の集め方や避難の仕方などを教えていただきました。本宮市の防災マップを見ながら、災害が起こりやすい箇所はどこか話し合いました。ワークショップでは、班に分かれて、竹ひごタワー作りをしました。友達と協力して作業をすることの難しさを感じました。いざというとき、正しい情報を集めて、適切な判断をすることで、大切な命を守ることができることを学ぶことができました。

学校運営協議会

第二回学校運営協議会を行いました。四年生の防災教室では、子どもたちの活動の様子をご覧いただき、地域の防災について考える機会にしていただきました。

熟議では、「保護者ボランティアとの連携による学校支援の充実」をテーマに、熱心な話し合いが行われました。

〔熟議から（抜粋）〕

○学校支援として、学習プリントの印刷、家庭科のボタン付けの実習補助など行っている。そのほかに、遊友クラブや水泳学習、町探検の引率補助などを行っている。小さいときから見ている子が多く、本日の授業でもしっかりと話を聞く姿から成長を感じることができた。コロナ以降、行事がなくなったり縮小したりしているが、「昔は、水泳大会やマラソン大会があり、よかったよね。」という声を聞く。一方で「（コロナで）なくても大丈夫だったのだから、なくてもいいのでは。」という声も聞く。コロナ以降、マイナス思考になってはいないかと心配になることがある。

○（コロナでは）当たり前だったことが、当たり前ではないということを感じた。普通だと思ってやっていたことも、今は面倒なことと感じるようになってはいないか。スポ少など、学校外での活動に参加している子も多く、放課後など忙しいということも関係しているのかもしれない。「（コロナ前に）戻す」「戻さない」は意見の分かれるところだが、今後は「戻せない」ということをベース（基本）に考えていく必要があるのではないか。

○ＰＴＡとしても「子どものために」と考えてはいるが、子ども（親）の数も多く、場所も限られており、先生方に負担をかけられないという思いもある。子どもの心の成長につながるよう支援していきたい。

○小学校の思い出で真っ先に思い出すのはイベント（行事）。子どもたちには、楽しさを味わわせたい。

○昔は、学年行事があり、学校でお泊まり会をしたのを思い出す。体育館が落成したばかりで、その記念として、当時の校長先生にお願いしてお泊まり会を実施した。大人が一生懸命やっていると、子どももそれに応えようとするのではないか。学校の教育活動を保護者がボランティアとして支えていただくのは大変心強いと思う。

○今後も、地域住民と保護者が一体となり、学校支援ボランティアとして、学校の教育活動を支えていくことが大切だと思う。

○町探検の引率補助など、地域ボランティアに依頼が来る場合と、そうでない場合がある。該当学年なら一緒に行って活動に参加したい（我が子の活動の様子を見たい）という保護者もいると思う。学年から協力をお願いしてはどうか。そうすることで保護者が学校へ足を運ぶ機会が増えるのではないか。

○参加した保護者から「よかった。」という声があれば、保護者同士でラインや口コミで広がるのではないか。そうすれば支援の輪もさらに広がるのではないか。

〔ふりかえり（まとめ）〕

○四年生の防災教室に参加したが、いざというときになかなかできないということが多いと思う。その場に応じて対応する力が大切だと感じた。こうした機会に保護者も参加し経験することで、いざというときの行動ができるようになると思う。体験を通して学ぶことで、（災害に対する）想像力も身に付くと思う。十一月には六年生の防災教室も予定されているので、保護者にもぜひ参加してほしい。